

「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画（素案）」のポイント

1 経緯

H29	1月	「史跡加曽利貝塚保存活用計画」策定 (博物館を坂月川対岸へ移転する方針を公表)
H31	2月	「特別史跡加曽利貝塚グランドデザイン」策定 (小倉浄化センター跡地を中心に新たな博物館を整備する方針を公表)
R元	6月	令和元年度第1回千葉県史跡保存整備委員会開催 (「新ガイダンス施設基本計画」を3月までに策定することを説明)
	7月	令和元年度第1回千葉県立博物館協議会開催 (「特別史跡加曽利貝塚グランドデザイン」策定について報告) 「特別史跡加曽利貝塚新ガイダンス施設基本計画策定業務」委託業者の決定 (公募型プロポーザル方式：(株)丹青社)
	8月	令和元年度第1回千葉県史跡保存整備委員会加曽利貝塚調査研究部会開催 (博物館の中に史跡のガイダンス機能や縄文貝塚文化の調査研究機能を組み込んだ施設とする方針を提示) ※「新ガイダンス施設基本計画」から「新博物館基本計画」に名称変更
	11月	計画策定に向けたワークショップの開催 (新博物館で行う事業活動や展示体験に対する意見聴取)
	12月	令和元年度第3回千葉県史跡保存整備委員会開催 (「新博物館基本計画」の中間報告) 計画策定スケジュールの見直し (展示体験計画の追加検討を行い、庁内の調整や市史跡保存整備委員会の答申等を経て、令和2年冬頃に策定・公表する)
R2	4月	展示体験計画の追加検討に着手
	6月	「特別史跡加曽利貝塚新博物館基本計画(素案)」とりまとめ

2 中間報告（12月22日）からの主な修正点

I 施設の基本方針

- ・「(2)新博物館の基本方針」のなかで、SDGsについて追記した(6ページ)。
- ・関係機関や市民との連携・協力を施設の計画段階から進めていく方針を明記した(6ページ)。
- ・加曽利貝塚の特性を踏まえたSDGsに基づく新博物館の目標設定、新型コロナウイルスの流行を踏まえたウイルス感染対策の方針を新たに盛り込んだ(8～11ページ)。

《前回いただいたご意見》

- ・縄文時代の生態系や環境の問題を追記すること(6・8～11、35ページ)
- ・自然環境を保全し、生産性を保ちながら、独特の進み方をもった縄文社会を発信すること
(6・8～11ページ)

II 事業活動計画

- ・事業活動テーマとして示した「LIVING JOMON」について、縄文人の子孫が当時の生活や文化を保持したまま現在まで絶えず暮らし続けているような印象が強い表現のため、代替案の英語のフレーズか日本語表記へ変更したい（14 ページ）。
- ・「3事業活動の展開」のうち「(1) 調査・研究」、「(2) 収集・保存」について、地域を限定する表記を削除した（15 ページ）。
- ・「(3) 展示・体験」について、加曽利貝塚出土資料の展示を独立させ、「(エ) 史跡ガイダンス展示」を追記した（18 ページ）。
- ・「(5) 集客・交流」の「(エ) 飲食サービス」について、「飲食可能なコミュニティスペース」に表現を改めた（20 ページ）。

《前回いただいたご意見》

- ・地域を限定した小さい規模にとらわれず、世界的な発信力を活用すること（15 ページ）
- ・実験考古学を展示の中でも活用し、研究も含めて位置付けること（15 ページ）
- ・資料収集管理の方針を整理すること（16 ページ）

III 施設計画

- ・自然災害発生時の対応を追記した（23 ページ）。
- ・内閣府及び文部科学省がそれぞれまとめた公共施設等の対応マニュアルに基づき、自然災害発生時の対応についての基本方針を追記した（27 ページ）。

IV 展示・体験計画

- ・「ア探求型展示・体験「加曽利LAB」」について、大テーマ、中テーマを見直した。また、縄文文化と貝塚に調査研究の成果を世界へ発信していく拠点となることを目指し、調査研究や資料収集の進展に向けて応じて、テーマな展示内容を継続的に更新していくことを明記した（35 ページ）。
- ・「イ没入型展示・体験「JOMONIA」」について、遺跡のできる体験との相違が分かるよう記載を追加、修正した（38～41 ページ）。
- ・「ウ対話型展示・体験「未来ラウンジ」」について、館内だけでなく、オンラインで学校や他館と交流する機能を追加した（42～44 ページ）。
- ・加曽利貝塚の出土資料については、できるだけまとめて展示し、史跡の全体像を伝えたいため、史跡見学の動線を踏まえ、「(3) 史跡ガイダンス展示」を追記した（44 ページ）。

《前回いただいたご意見》

- ・地域を限定した小さい規模にとらわれず、世界的な発信力を活用すること（35 ページ）
- ・原始時代を助長するイメージは良くないものの、イメージを打ち出すことも誤った印象を与えるため留意すること（38～41 ページ）
- ・オープンラボの内容を検討すること（37 ページ）

V 管理運営計画

- ・「組織体制」について事業部門と研究部門を分け、展示や教育普及の企画は両部門で連携して進めていくことを明記した（49 ページ）。
- ・「外部連携の考え方」として提示した項目を「「みんなでつくる・育てる博物館」に向けた考え方」に改め、計画段階から市民や研究者との連携を進めていく方針を示した（50 ページ）。
- ・大学等との連携に関する「博物館の研究資源化に向けた考え方」、「市民協働の活性化に向けた考え方」に分けてまとめた（50 ページ）。

《前回いただいたご意見》

- ・オープンな博物館づくり、博物館活動そのもの見える化を行うこと（50 ページ）
- ・ボランティアや大学など、連携を考えていくこと（50 ページ）
（博物館の持つ資源や研究フィールドとしての提供。人材育成）
- ・科研費獲得へ向けた体制づくりや研究資源としての活用（49・50 ページ）

4 今後の計画策定スケジュール

R 2	9月	令和2年度第2回千葉市史跡保存整備委員会 開催 基本計画（案）答申
	秋頃	政策会議、教育委員会会議
	冬頃	基本計画策定・公表